

---

# お参りにいくのだ

源雪風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

お参りにいくのだ

### 【Nコード】

N5577K

### 【作者名】

源雪風

### 【あらすじ】

新年キター。

てなわけで神社へお参りに行く。

参拝者の列に並びながら、この小説をノートに書きつけた。

初詣。

神社の列に並んでいる。

私の後ろにはカップルが並んでいる。

顔を真っ赤にした男がすれ違う。

おそらく昨日飲み明かしたのだろう。

列の近くで、議員が小さな声で演説している。

新年早々ごくろうさんなこった。

誰も話なんて聞いていないけどね。

ふと左を見るとおもちゃが捨てられている。

後ろに並んでいるカップルは福山雅治のブレスレットが欲しいと話  
しあっている。

神社の公園ではブランコに子供が寄生して、くうらくうら揺れてい  
る。

急に冷たい風が吹き出した。

ズボン越し寒さがしみてくる。

凍えていると、列がちよつと進んだ。

鳥居の前には色々な町内会のお店の名前が書いてある紅い提灯が下  
がっている。

私の街の町内会のだけ傾いている。

親に背中をつつかれ、振り向いたらお賽銭をくれた。

私は105円。

弟は110円。

五円とご縁がかかっている。

ご縁なんていらぬのに。

縁など大人になってからでよろしい。

それにこんなはした金で叶う願いなどたかがしれている。並んでいるのが退屈で、いよいよ反抗的になってきた。

その後ろからカップルの会話が聞こえてきた。

「ねえ、甘えてもいいでしょ。」

女のとろけそうな声。

「ウザいんだよ。」

冷たい男の声。

それを聞いて少し愉快的な気持ちになった。

列が進み、列の両脇に屋台が並び始めた。

焼きそばや、お好み焼きのソースの安っぽい匂いが漂う。

空は快晴。

風がちようちんをわずかに揺らしている。

そうだ。神様をお願いすることを考えなきゃ。

受験がうまくいきますように。

これじゃつまらないな。

いい一年になりますように。

むう、いい一年じゃ具体的じゃないから、神様も願いを叶えにくいだろうな。

楽しいことがありますように。

うん。これがいい。全然具体的ではないけど。

受験は努力で何とかなる（と信じている）けど、楽しいことは神様からのギフトだから、頼んでおかないとだめだと思った。

後ろの方から「めいめい。」と変な声がする。

振り返ると、小さなプードルが飼い主に抱きしめられて呻いていた。かわいそうに。

列が進んで、ついに神社が正面に見える位置まで来た。

そこからは、アルバイトの巫女が笑顔で男と話しているのが見えた。  
金髪の巫女だ。  
ちよつと新鮮。

巫女を観察していると、だるまを燃やしている焚火の煙が、風に乗  
つてここまで届いてきた。

ごほごほ、ああ、煙い。

これは天罰だろうか。

口の中もざらざらしてきた。

運命の試練だ。

と、思いながらどんどん神社に近づいていく。

ついに賽銭箱の前に来た。

朝のTVでやっていた正式な拝み方をお願いごとをした。

やっと列から抜け出して、おみくじを引く。

学問のところに『自分に自信を持つ。』と書いてある。

分かりました。私、自分を信じますとも！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5577k/>

---

お参りにいくのだ

2011年1月26日23時08分発行